【静岡県立掛川工業高等学校】

令和７年度　第１回　学校運営協議会（報告）

日時：令和７年６月２日（月）
午前 10 時～11 時 50 分
会場：掛川工業高校　小会議室

１　開会

・校長挨拶

２　授業参観

３　学校からの連絡・報告事項

・委員長の任命
・「学校運営協議会の設置等に関する要綱」について
・「令和７年度　学校経営計画」について
・「学校の近況報告等」について
・「令和６年度　国家資格・検定試験合格状況」について

４　協議・意見等

(1) 外部環境と受験者数の減少

・出願者が減少した理由として、中学校側から、普通科志望の多さや現２年生高校入試における高倍率の影響が考えられる。
・工業高校としての認識不足や PR 不足が生徒数減少に影響している可能性があり、原因分析と対応策の必要性が強調された。
・中学校教員の「不合格させたくない」という心理的背景や家計負担の問題も議論され、今後の広報・説明活動の充実が求められた。

(2) 保護者および地域へのアプローチ

・工業高校の特色や必要性を保護者・地域に明確に訴求するための情報発信（例：学校紹介ビデオ、広報戦略）の改良が挙げられた。
・少子化による生徒数減少を憂慮し、具体的な対策や改善策の策定・実行が重要とされた。

(3) 広報・中学校訪問の取り組み

・中学校向けに動画を配信し、昼休みなどに視聴してもらう予定がある。広報活動が十分にできていないことが課題として指摘されている。
・今年度は管理職を中心としたメンバーで、中学校を再訪問し、教育内容や対応策を直接伝える計画がある。広報の強化を通じて、学校の魅力や進路情報をより効果的に発信することが目指されている。

(4) 定員割れとクラス数減少の問題

・クラスを１つ減らした結果、倍率が上がり、合格できなかった受験生が出たケースがある。

・生徒数全体が減少傾向にあり、定員割れが深刻化している。本県でも計画的にクラス数が減らされている状況が説明された。

・定員割れが続くと統廃合の対象となる可能性があるため、定員確保の重要性が強調された。

(5) 教職員のモチベーションと健康管理

・教職員のメンタルヘルスやモチベーション向上が重要なポイントとして挙げられている。生徒目線の評価が多い中で、教職員のやる気や健康状態にも配慮が必要との意見があった。

・企業の例として、40 代以上は人間ドック受診を推奨し、心身のケアを徹底している取り組みが紹介された。教職員が自身の健康管理も十分に行える環境づくりが必要とされている。

・教職員同士で知恵を出し合い、少人数で抱え込まずに協力して課題解決に取り組むことの重要性も指摘された。

(6) 高校・工業高校の特徴および情報発信の重要性

・普通高校と工業高校の違いとして、工業高校は学科ごとの将来の選択肢が異なるため、情報発信の仕方も変わってくる。企業側からは、電気電子情報分野の人材が求められているにもかかわらず、定員割れが起きていることへの課題認識が示された。

・SNS やスマートフォンが情報収集の主流となっており、子どもたちは SNS 上の情報（学園祭の様子、部活動の強さ、有名卒業生の話など）を通じて進学先や学校のイメージを形成している。親の意見よりも SNS の情報が進学先選びに大きく影響している現状が語られた。

・外部の技術者や企業との協力事業、現場の知識を活かした実践的な授業内容の宣伝も効果的な手段として取り上げられている。ヤマハの技術者による授業など、外部連携の事例が紹介された。

・学校の進路実績や卒業後の進学・就職先、大学院進学などの出口情報等、卒業生が活躍する具体的なイメージを明確に発信することの重要性も指摘された。

(7) クラブ活動および部活動強化の戦略

・一部の部活動を強化することで学校全体の魅力を上げ、外部からの評価や情報発信効果を狙う戦略が提案された。過去のバレーボール部を例に挙げている。

・部活動の成功例をもとに、同種の活動や他の領域にも積極的に取り組むことで、学校や卒業生の活躍が期待される。特定の分野で突出した実績を作ることで、他の分野にも良い影響が波及するとの意見があった。

(8) 国際化・英語教育と海外研修

・国際化の進展に伴い、親の視点からも英語教育の強化や海外修学旅行、国際交流の実績を訴求する必要がある。台湾への修学旅行など、海外体験の事例も紹介された。

・学校の魅力として、海外での体験や国際的な視野を持つ学生の育成をアピールする取り組みが求められている。英語力の強化や国際化への対応が、今後の学校運営において重要視されている。

5　閉会・所連絡

(1) 議事録について

後日、ホームページに掲載する。

(2) 今後の予定

第２回　令和７年11月１日（土）